

♪♪♪……………

世界で1番大事な人が
いなくなっても日々は続いてく
思い出せなくなるその日まで
何をして何を見て息をしよう
ひらひら輝くこの雪も季節も
せめてあなたがそばにいれば
今ではただ冷たくて
邪魔くさいだけね
寒いねって言ったら
寒いねって聞こえる
あれは幸せだったのね



たとえばあなたといた日々を
記憶のすべてを消し去る事ができたとして
もうそれは私ではないと思う
幸せひとつを
分け合っていたのだから
私の半分はあなたで
そしてあなたの半分は
私でできていたのね
それならこんなに痛いのも
涙が出るのも
仕方がない事だね
……………♪♪♪



医界サロン

思い出せなくなる その日まで

広報委員 黒岡 正之

偶然入った喫茶店の中でこんな美しくも悲しい曲が流れていました。

ある日の午後、所用があり、久しぶりに神戸を訪れました。予定より用事が早く終わりましたので、昼下りの神戸の下町を少し散歩することにしました。ここは、平成7年の阪神淡路大震災で、大きな被害を受けた場所ですが、25年が経ち、街はすっかり綺麗になっていました。その街角に、珍しく昭和の匂いが残る純喫茶を見つけ、私は少し興味を持って、懐かしい音色のするドアベルを鳴らしながら店に入りました。店内は思ったより客が多く、手前のカウンター席に腰掛けました。カウンター前には、今ではもうほとんど見なくなったコーヒーサイフォンが並び、コーヒーの芳香を発しながら、ガスバーナーの青白い炎が揺れていました。私は、迷わずブレンドコーヒーを注文し、最近すっかり癖になってしまったため息をひとつついたら、店の小さなスピーカーから聞こえてくる音楽に気が付きました。それが冒頭の曲だったのです。女性の透き通るような声で歌われるその曲は、私の心の琴線に触れました。

コーヒーができるには少し時間がかかりそうでした。それを待つ間に、ふと奥のテーブル席に目をやると、80歳前後のご婦人3人が楽しくおしゃべりをしていました。失礼なことでしたが、私はそっと3人の会話に耳を傾けました。どうやら、皆さん夫君を既に亡くされ、今はおひとりのようでした。しかし、皆さんは若々しく行動的で、ある方は、最近、ヨガを始めたのだけれど、意外と自分の身体が柔軟だったと皆を笑わせ、これには私も思わずひとり笑いをしてしまいました。そのお隣の方は、今でも若者と混じってテニ

スをされているようですが、やっぱり亡き夫とダブルスを組むのが一番楽しかったと少し小さなお声で語られた時に、私の頭の中で先ほどの曲の情景が蘇り、この賑やかなおしゃべりの奥にある彼女らの悲しみと寂しさを垣間見た気がしました。

これは若い人の悲恋歌なのかもしれません。しかし長年連れ添った高齢夫婦の別れの悲しみの歌でもあると私は思いました。私の診療所にも、伴侶を亡くされた患者さんがたくさん通院されています。改めて考えると、皆さんは、最愛のパートナーとの死別という人生最大のストレスを乗り越えられた、いや、乗り越えようと苦悩されている方々です。私などは、診察室でその元気なお声をお聞きすると、つつい安心してしまうのですが、しかしその明るさに決して騙されてはいけません。皆さんの心のもっと深いところを理解しないとイケないのです。この歌詞のように自分の人生の半分を失った方々の深い悲しみや寂しさ、やるせなさに、我々は常に思いを巡らせ、気持ちに寄り添いながら診療をしているのでしょうか。たとえ血圧や血糖値が良くなったとしても、その心の半分の穴埋めのお手伝いはできているのでしょうか。「思い出せなくなるその日」は決して訪れないと私は思います。しかし、我々臨床医は、患者さんの心の痛みを和らげることのお手伝いを少しはできるでしょう。皆さんが心の痛みで、時々涙が出るのは仕方がないことだけれど……。

文中歌 「思い出せなくなるその日まで」
作詞作曲 清水依与吏
店に流れていたのはMs.OOJAによるカバーでした。